

## 第5回ゼロマラリア賞 (Zero Malaria Award)

### 桂歌助の創作落語「蚊相撲」が受賞

#### 蚊を笑いに、日本の伝統芸能でマラリアを考える

特定非営利活動法人 Malaria No More Japan は、2018年4月25日の世界マラリアデーを記念して、顕彰事業「ゼロマラリア賞」第5回受賞者を創作落語「蚊相撲」を上演する落語家・桂歌助氏に決定したことを発表しました。

同賞は、マラリア制圧のために取り組む個人、団体を表彰するもの。具体的な支援事業の実施に留まらず調査研究、情報発信、またマラリアという言葉の認知率向上のためのアイデア作りなどに取り組む個人など、マラリアに関わるあらゆる分野の個人、団体を対象としています。第1回目となる2014年は、公益社団法人日本青年会議所に、第2回(2015年)は川本文彦・大分大学名誉教授へ、第3回は長年ラオスでの活動を実施されていた琉球大学の小林潤教授へ、第4回は『マラリア撲滅への挑戦者たち』の著者・南風原英育氏および日本最南端の出版社「南山舎株式会社」へ贈られました。



2017年8月30日の世界蚊の日記念イベントで  
©Malaria No More Japan

第5回目は、狂言の「蚊相撲」および古典落語「蚊いくさ」をベースに創作落語「蚊相撲」を上演、合わせてマラリアについてメッセージを発信する、桂歌丸師匠の愛弟子であり寄席以外でも舞台やテレビで俳優としても活躍する桂歌助氏へ贈られます。桂歌助氏からは「今後も蚊相撲を広く聞いてもらい、蚊による感染症で苦しむ人をなくしていけたら」というメッセージを寄せられています。

Malaria No More Japan では今後、同賞を公益目的事業の一つとして育成、発展させていきたいと考えています。

同賞に関する詳細は Malaria No More Japan 事務局まで。

#### 【本賞に関する報道機関からのお問い合わせ先】

Malaria No More Japan (マラリア・ノーモア・ジャパン) 担当：飯塚・長島

TEL : 03-3230-2553 Email : [info@mmnj.asia](mailto:info@mmnj.asia)

**【桂歌助（かつら うたすけ） 略歴】**

本名：関口昇（せきぐちのぼる）。昭和 37 年新潟県十日町市で生まれる。昭和 60 年 12 月 師匠歌丸に入門、歌児となる。昭和 61 年 3 月 横浜三吉演芸場で初高座、昭和 61 年 5 月 前座になる 平成 2 年 6 月 二ツ目に昇進、歌助に改名。平成 11 年 5 月 真打昇進。大学では数学を専攻し、英語研究部に所属し、在学中に落語家に。古典落語の公演を中心に仕事を展開するほかインターネットを落語にいち早くとりいれた。平成 11 年には東海道五十三次すべての宿場で落語会を開催、「宿場落語」を創作発表してきた。平成 12 年 TBS「水戸黄門」に準レギュラー出演。平成 25 年 NHK 時代劇「薄桜記」に幫間役で出演。舞台役者としては新宿コマ劇場にて細川たかしさんのお芝居に、三越劇場にて春秋男組公演のレギュラー出演をしている。<http://utasuke.com/>

**受賞に際してのコメント**

思いがけず栄誉を頂き皆様に感謝申し上げます。マラリア撲滅の役に立てて光栄です。今後も蚊相撲を広く聞いてもらい、蚊による感染症で苦しむ人をなくしていけたら幸いです。

**ゼロマラリア賞とは**

マラリア制圧のために取り組む個人、団体を表彰するもの。具体的な支援事業の実施に留まらず調査研究、情報発信、またマラリアという言葉の認知率向上のためのアイデア作りなどに取り組む個人など、マラリアに関わるあらゆる分野の個人、団体を対象に、2014 年に特定非営利活動法人 Malaria No More Japan によって設立されました。

第 1 回（2014 年度）受賞者 公益社団法人日本青年会議所

\*長年の国際青年会議所による蚊帳をアフリカの子どもに送るキャンペーン「Nothing But Nets」に協力する活動が評価

第 2 回（2015 年度）受賞者 川本文彦・大分大学名誉教授

\*アクリジンオレンジ染色顕微鏡検査法の開発、並びにマラリアと G6PD 欠損症の分子疫学的研究で世界的にも有名な研究者の研究に対して

第 3 回（2016 年度）受賞者 小林潤・琉球大学教授

\*長年ラオスでの活動を実施などアジアでの活動に対して

第 4 回（2017 年度）受賞者 南山舎による南風原英育著『マラリア撲滅への挑戦者たち』出版活動

\*日本で最後まで残った所謂「戦争マラリア」およびその後のマラリア制圧の沖縄県での取り組みを丹念に取り上げ、戦争マラリアの実態を紹介した書籍『マラリア撲滅への挑戦者たち』の出版活動に対して